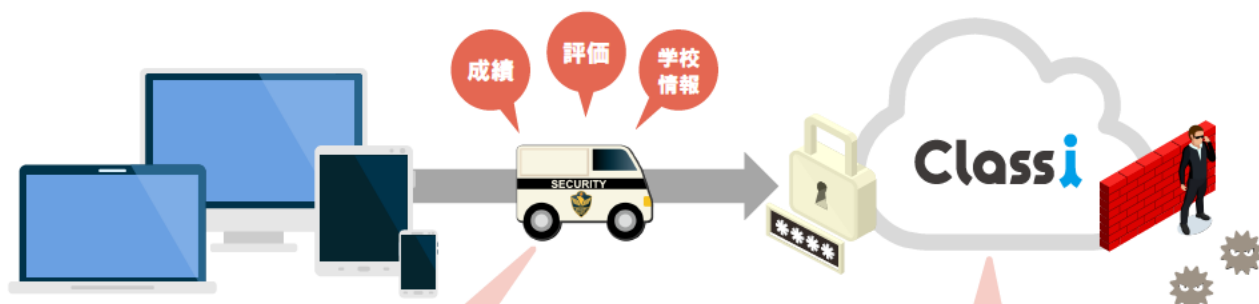


安心・安全の取り組み

Classiは暗号化通信と厳重なデータ保管ルールで、大事な情報を守ります。



- Classiは、SSL/TLS方式の通信で暗号化しデータを保護しています。通信時に悪意ある第三者に内容を覗かれることはありません。

SSL/TLSはインターネットバンキングやインターネットショッピングの際のクレジットカード情報転送にも利用される、信頼性の高い通信技術です。

- 学校の指示があれば、校外からのアクセスを制限することもできます。公衆無線WiFiや自宅などからはアクセスができなくなり、盗聴の危険性が低減します。

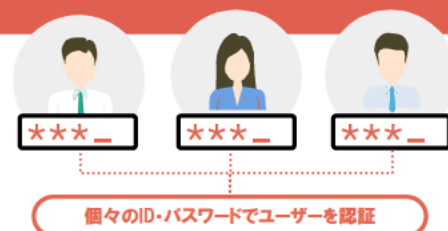
- Classiに保存された個人情報を含むデータは、学校単位で暗号化された安全なデータ格納方式で管理しています。

- また、ユーザーがClassiにアップロードするデータは、暗号化されているなどの特定の場をを除き、アンチウイルスソフトウェアで自動的にウイルスチェックされます。

- Classiのデータベースは、Classi株式会社の監視カメラ付きのセキュリティルームからしかアクセスできないよう厳重管理しております。入室・操作ができるのは権限を持つごく一部の社員に限られ、作業内容は記録されます。

Classiにアクセスするには、IDとパスワードが必要です。

Classiへのログインは、ユーザー個人にそれぞれ発行されるID・パスワードで認証されます。(発行された後はユーザーが各自でID・パスワードを自由に変更できます) ログイン後も、特に重要な個人情報を表示・入力する画面ではパスワードを再入力していただけます。ID・パスワードの管理・お取扱いは各位でご確認ください。



安心して使っていたくために
お願いしたいこと

Classiは、安全にご利用いただくための取り組みを各種行っていますが、それで全てのセキュリティの脅威が防げるわけではありません。車の事故が安全装置だけでは防げないように、Classiを使っていたく保護者の方にも、安全な使い方にご配慮を頂く必要があります。たとえば、家族の名前や誕生日、飼っているペットの名前などの、推測されやすい安易なパスワードが設定されていると「ふとしたはずみ」や「不注意」から不正アクセスに繋がるケースもあります。お子様の大切な情報を守るために、ご協力をお願いします。

安全なパスワードの考え方

良いパスワードの条件は、覚えやすく・複雑で・他で使っているものと重複しないことです。Classiのパスワードは半角英字・数字・記号を混ぜた8文字以上でつけていただくことがルールになっていますが、これは最低限のルールです。おすすめは、パスフレーズ(好きな言葉や歌の歌詞など、ある程度長い言葉をローマ字に変換したもの)とサイト別の識別子を組み合わせるパスワードとして利用することです。ぜひこの機会に、安全なパスワードを考えてみてください。

パスワードの考え方の例:

好きな数字を記号で囲む

sukinautanokashi-12-cl

好きな歌詞の一部をローマ字にしたもの Classiを示す識別子

安心してご利用いただくために、Classiには以下のような機能があります。



先生ごとに「Classi管理者権限」と「閲覧権限」を設定していただいています。

Classiは「Classi管理者権限」と「閲覧権限」の二種類の設定によって先生ごとに操作できる機能や扱える生徒の範囲を限定できます。先生のそれぞれの立場に応じて、操作・閲覧できる範囲を最小限に設定しておけば、不必要に生徒の個人情報や学校の機密情報が人目に触れることはありません。万が一パスワードが流出したときにも被害の範囲を狭めるために、そのような設定を先生方にお願ひしています。

「Classi管理者権限」とは

操作できる**機能の範囲**を限定するためのものです。Classiは「管理責任者・管理者／機能限定管理者／一般（初期設定）」の4種類の権限が設定できます。例えば、時間割など学校や学年全体に関わる設定は「管理責任者・管理者」権限の先生しかおこなえません。

管理者の任命権限
学校全体に関する設定権限
成績や志望校の登録権限
自分に関する設定権限

権限	管理責任者	管理者	機能限定管理者	一般ユーザー
管理者の任命権限	⚙️	×	×	×
学校全体に関する設定権限	⚙️	⚙️	×	×
成績や志望校の登録権限	⚙️	⚙️	⚙️	×
自分に関する設定権限	⚙️	⚙️	⚙️	⚙️

〈 設定例 〉

権限	Classi管理者権限	学年主任権限	クラス担任権限	教育実習生権限
Classi管理者権限	Classi管理責任者の先生	学年主任の先生	クラス担任の先生	教育実習生

「閲覧権限」とは

閲覧・出力できる**生徒の範囲**を限定するためのものです。「権限」とは別に、管理責任者の先生は、それぞれの先生の立場に合わせて、閲覧・出力できる生徒の範囲を細かく設定できます。例えば、野球部顧問の先生は「担当クラスの生徒」と「部活の生徒」のみ閲覧・出力できるように設定しておけば、他のクラスや他の部活の生徒の情報は表示されなくなります。

学年・クラスの閲覧範囲
部活の閲覧範囲
成績の閲覧
指導要録の閲覧
通知表の閲覧 ...

権限	学年・クラスの閲覧範囲	部活の閲覧範囲	成績の閲覧	指導要録の閲覧	通知表の閲覧
Classi管理者権限	全員	全員	✓	✓	✓
学年主任権限	全員	全員	✓	✓	✓
クラス担任権限	全員	全員	✓	×	×
教育実習生権限	担当クラスの生徒のみ	担当部活の生徒のみ	×	×	×

校内でClassiを管理する係として任命された先生が、「管理責任者」です。

その他、「委員会」で閲覧範囲を制限したり、志望校、学籍情報、調査書等の閲覧を制限したり、横票出力の禁止などが設定できます。



Classiのセキュリティはどれくらいの水準なんですか？

Classi社には、ご紹介した以外で見えないところにも様々なセキュリティ対応の体制があり、教育を受けた社員たちが日々生徒たちの大切なデータを守っています。社内のセキュリティに抜けや漏れがないことを確認するのが、ISO/IEC 27001 (ISMS) 認証と呼ばれるものです。ISO/IEC 27001という世界的なセキュリティの規格に照らして、Classiの会社全体としてのセキュリティレベルを第三者機関が審査し、条件を満たすことで認定を受けられるというものです。日々進化するセキュリティ脅威に対応している証明として、Classiはこの認証を毎年維持・更新しています。独りよがりになるのではなく、きちんと満たすべき水準を満たしているという証明でもあります。